

第11章 造園技法

STEP1 分析と対策 ★★

■出題状況

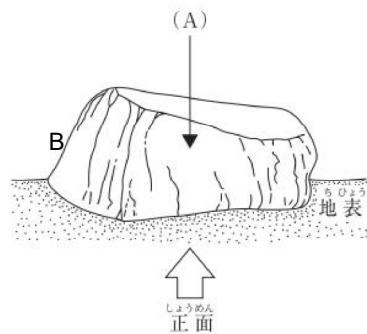
日本庭園の伝統技法を扱います。庭石の部位、滝石組の役石、茶庭の役石、飛石の打ち方、垣根の種類、石積み、間知石、延段の8項目から、毎回1～2問が出題されます。3～5年おきにローテーションして問われる傾向があり、山当ては難しいです。

STEP2 基本解説

(1)庭石の部位

日本庭園に据える庭石には、人体の部位になぞらえた6つの呼び名があります。右の図は R7 後 Q9 の出題で、矢印 (A) の部分の名称を「鼻・とも面・見付き・見込み」から選ばせる問題でした。

過去問では、石のある部分を矢印で指して名称を答えさせる形式で繰り返し問われます。



部位名	位置
鼻 (はな)	石のいちばん突き出た先端部分
見付き (みつき)	正面から見えるおもて面 (図の A)
見込み (みこみ)	見付きの奥行き方向に見える側面 (図の B)
天端 (てんば)	石の上面
合端 (あいば)	石どうしを合わせる接合面